

# 會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

第四十九卷第三號 昭和十四年八月一日發行  
 大正四年六月二十一日第三號發行

號二第 卷九十四第

月八年四十和昭

## 論叢

近世初期の經濟思想……………經濟學博士 木庄榮治郎  
 利子動態說について……………文學博士 高田保馬  
 社會問題と國民的性格……………經濟學博士 石川興二

## 時論

小賣免許制の諸問題……………經濟學博士 谷口吉彥

## 研究

貨幣數量說の動學化としての期間分析……………經濟學士 青山秀夫  
 英國の相續稅……………經濟學士 三谷道麿

## 說苑

京都信用保證協會の設立……………經濟學士 田杉競  
 北京民衆の家計……………經濟學士 菊田太郎

## 附錄

彙報  
 外國雜誌論題

(禁轉載)

# 彙報

## 經濟學部

○東亞同文書院教授穗積文雄氏は六月三十日付を以て本學助教授に任せられ東亞經濟思想史を擔任せらる。

○教授小島昌太郎氏は五月三十一日出發滿洲及中華民國へ出張七月四日歸學せらる。尙同氏は興亞院囑託、興亞委員會幹事の任に在り。

## 經濟學會

○會員動靜

## 同好會

○六月十日(土) 去來の雨霽れて快晴に恵まれ、午前八時五十分京都驛發。熱田神宮に參詣、聖壽萬歲皇國安泰を祈願し、美濃太田に到り日本ライン三里を下る。清流に十一艘の舟を浮ぶ。急湍あり深潭あり、神斧鬼鑿の奇巖妙石駢立する中を輕舟は快走す。船夫の妙技に三嘆、又その話す説明傳説に樂しむ。聳立する秀巒出沒する野猿は興趣一入なり。夕暮富士に夕日の春く頃犬山着。白帝城下にて解散したのは午後五時。一日の清遊を慶びあひつゝ夫々歸途についた。當日の參加者——柴田先生及び學生百十名。

○六月二十日(火) 吹田ビール工場及大阪北濱株式取引所見學。午前八時半京都驛發。吹田ビール工場を見學す。東洋一の素晴らしい製造過程を見學し、技師長の詳細な講話あり、熱心な質疑がくり出された。午後一時からの大阪株式市場の目まぐるしい情景は我々の魂を呆然とさせた。商都大阪の感を深くすると共に脈うつてゐる經濟を目のあたり見て感銘した。先輩樗木航五郎常務理事の講演及場内課長の解説あり、又所員からの談論風發的説明あり質疑應答の中に話は株に關する小説にまで及び仲々面白かつた。午後三時半解散。當日の參加者——佐波、田杉兩先生及び學生五十九名。